

i-Construction 推進コンソーシアム 第 5 回企画委員会
議事概要

日時：令和元年 7 月 17 日(水) 15 時～17 時

場所：合同庁舎 3 号館 11 階特別会議室

出席：安宅委員、小澤委員、仮屋蘭委員、小宮山委員、森田委員（50 音順）

事務局より、生産性向上に向けた取組の現状と分析（資料 1）、i-Construction 推進コンソーシアムの各 WG の活動状況について（資料 2）、i-Construction 委員会報告書宇のフォローアップ（資料 3）、ICT 施工の海外動向（フィンランドの事例）（資料 4）、公共工事の品質確保の促進に関する法律の改正について（資料 5）を説明し、意見交換を行った。

（主な意見）

【生産性向上に向けた取組の現状と分析】

- ・ 労働力不足を見据え、50 年かけて実現するつもりで、道路や橋梁を徹底的にモジュール化し、低労働力、低コストで実施できる仕組みを考えるべき。
- ・ 先進的な i-Construction の使い方が適する地形ばかりではないため、最低限度のレベルや継続可能な方法が必要。
- ・ 現在は働いた工数に対してお金を積み上げる積算の方法が採用されているが、実際の成果（出来高）に対してお金を積み上げる積算の方法に切り替えていく必要。
- ・ i-Construction を普及させていくため、普及状況を見える化（数値化）する必要。また、阻んでいる課題を抽出し、ターゲットを明確にすることが必要。
- ・ スタートアップ企業の機会損失が生じている。スタートアップ企業のマッチング拡大をお願いしたい。

【i-Construction 推進コンソーシアムの各 WG の活動状況】

- ・ マッチングについて、他分野の成功事例の多くは、インターネットを活用してアプリ上でマッチングを行っている。ベンチャー企業にまずは取り組ませてみるのが大事。
- ・ 道路や橋梁などの状態をセンシングするデバイスを埋め込むことで、道路が物流だけでなく意味で産業の種になる。
- ・ 再生可能エネルギーや農林水産業、森林利用との関係など、他省庁との狭間に大事な問題が落ちている。データプラットフォームのインターフェイスとデータについて早く他省庁と検討してほしい。
- ・ 各局が持つ情報を集めてどういう構造にするべきか、セキュリティを保ちつつ、目標・戦略を持って進めて頂きたい。
- ・ 過去に情報体系化を試みたが頓挫してしまったことがある。こうしたものも有効に利用してほしい。
- ・ インフラ輸出について、クオリティの高さを示すことが重要でそれには事例しかない。優良事例が揃えられていると、インフラ輸出時の大きな助けになる。これは企業 1 社で出来るものではなく、国交省で整理すべき。
- ・ マレーシアのツインタワーが日本の建設会社と韓国の建設会社で施工されたが、韓国側のタワーが傾いたため、連絡橋で繋いだという、日本の高い建設力を示す事例がある。
- ・ ICT 活用とデータ活用の 2 階建てで考えるべき。総合的に見ないと一体感のある推進にならない。

【i-Construction 委員会報告書のフォローアップ】

- ・ 戦略的な広報が必要。i-Construction 大賞について、行政だけでなく、受賞者が発信していく力を利用してはどうか。委員とも協力して取り組むこと。
- ・ 工事の過程を全て映像化（video化）することをルール化してはどうか。

【ICT 施工の海外動向（フィンランドの事例）】

- ・ BIMの専門家を育てていくべき。
- ・ 設計、施工、維持管理を一気通貫で3次元化することやBIM マネージャーがいるという点で、フィンランドが日本より先に行っている。
- ・ 受発注者間で進めていくアライアンス方式について、日本でも取り入れている側面もあるが、日本でもどんどん取り入れていくべきではないか。
- ・ 下水管など道路には様々なものが埋まっているが、ブロックチェーン技術等も活用して、工事等の履歴情報を残していく取組が必要。国交省が全体のイニシアチブをとるべき。
- ・ 実際にフィンランドの取組状況を視察した方がいいのではないか。彼らと組むことも考えられる。

【公共工事の品質確保の促進に関する法律の改正について】

- ・ AI などのスーパーエキスパートに高い報酬を出す流れを作っていくことが必要。そうしないと若い人が従事しなくなる。今とは違う賃金体系が必要になるのではないか。
- ・ 3次元データをハンドリングできる人材を認定し資格を与える制度も今後あるべき。

以上